

ネパール・カトマンズの水環境汚染と健康影響 A study on water pollution and health impact in Kathmandu Valley, Nepal

西田 継^{1*}
Kei Nishida^{1*}

¹ 山梨大学・国際流域環境研究センター
¹ICRE, University of Yamanashi

アジア地域では、安全な水へアクセスできなかつたり、衛生環境が不備なために、水を原因とする健康問題が日常化している場合が多い。その傾向は、特に人口が過密化する都市部で深刻である。当研究グループは数年来、ネパールの首都があるカトマンズ盆地において、水汚染、健康影響、浄化技術、水資源管理等についての研究を重ねてきた。カトマンズ盆地では、年間約2万人が水系感染症に罹患し、そのうち約3千人が死亡していると報告されているが、定量的かつ長期の調査例は非常に少なく、対策はおろか現状把握も正確にできていない。本講演では、主要な生活用水である浅層地下水の糞便汚染に関する最新の解析結果を、化学指標と微生物指標の側面から解説する。また、住民の水利用形態と健康影響の関連についても、これまでに聞き取り調査で得られた知見を紹介したい。

キーワード: カトマンズ, 水系感染
Keywords: Kathmandu, water borne disease